

年末年始の「領海侵入」をテレビはどう伝えたか、伝えなかったか



昨年（2016{平成 28}年）12月26日、沖縄県石垣市の尖閣諸島沖で、中国海警局の船3隻が日本の領海に侵入し、約1時間航行しました。これにより、昨年中の尖閣諸島周辺での中国公船による領海侵入は合計36回、述べ121隻に及び、過去2番目の多さとなりました。

また、今年1月4日には中国海警局の船4隻による「今年最初」の領海侵入があり、うち1隻は機関砲のようなものを搭載した船でした。

さらに1月8日には今年2度目の領海侵入があり、中国公船による我が国領土への侵害行為は活発さを維持しています。

ところが、これらの事案について、テレビの報道がほとんど無いのではないかとの指摘が当会に寄せられております。

そこで、これらの事案をテレビ報道はどの程度伝えたか、あるいは伝えなかったかについて、それぞれ当日の在京キー局における報道番組すべて（バラエティ系番組も含む）を調べた結果を以下に報告いたします。

◇2016年12月26日

・NHK 報道無し

・日本テレビ 報道無し

・TBS 報道無し

・テレビ朝日 報道無し

・テレビ東京 報道無し

・フジテレビ 報道無し

◇2017年1月4日

・NHK 午後2時から5分間のニュース内で約1分30秒報道。

『中国会計局の船 領海侵入 外務省が抗議』

「今日、沖縄県の尖閣諸島の沖合で、中国海警局の船4隻が、日本の領海に侵入したことを受けて、外務省の金杉アジア大洋州局長は中国大使館の公使に対し、“尖閣諸島は日本固有の領土だ”として抗議しました。

第11管区海上保安本部によりますと、今日午前10時過ぎ、尖閣諸島の魚釣島の沖合で、中国海警局の船4隻が相次いで日本の領海に侵入しました。4隻はおよそ1時間半にわたって領海内を航行し、いずれも正午までに領海から出たということです。4隻は正午現在、魚釣島の西南西およそ23キロから南西およそ28キロの日本の接続水域を航行していて、海上保安本部が、再び領海に入らないよう警告と監視を続けています。尖閣諸島の沖合で中国海警局の船が領海に侵入したのは、先月26日以来で、今年に入って初めてです。これを受けて外務省の金杉アジア大洋州局長は、東京にある中国大使館の公使に対して、“尖閣諸島は日本固有の領土だ”として抗議しました。」

・日本テレビ 報道無し

・テレビ朝日 報道無し

・TBS 報道無し

・テレビ東京 報道無し

・フジテレビ 「みんなのニュース」(午後4時50分7時00分) 内で約1分報道。

『中国船4隻が領海侵入』

「今年も早速また領海侵入です。第11管区海上保安本部によりますと、午前10時12分頃から30分頃にかけて、沖縄県尖閣諸島の魚釣島の沖合で中国海警局の船4隻が領海に相次いで侵入しました。海上保安本部が領海から出るよう警告し、4隻はおよそ1時間半、領海内を航行した後、いずれも正午前に領海から出ました。尖閣諸島の沖合の中国公船による領海侵入は先月26日以来で、今年に入って初めてで、海上保安本部は警戒を続けています。」

◇2017年1月8日

・NHK 報道無し

・日本テレビ 「Going! Sports & NEWS」(翌9日午前0時25分1時28分) で約40秒報道。

『中国公船3隻がまた日本領海侵入』

「中国公船がまた日本の領海に侵入しました。今年に入って2回目です。今日午前10時前、中国の公船3隻が沖縄県尖閣諸島周辺の日本の領海に相次いで侵入しました。今月4日以来、今年に入って2回目です。これを受け、外務省の金杉アジア大洋州局長は、中国大使館の劉次席公使に電話で強く抗議しました。政府は来年度から海上保安庁の予算を増やすことを決めるなど、警備体制を今後さらに強化していく方針です。」

・テレビ朝日 報道無し

・TBS 「JNNフラッシュニュース」(午後8時54分9時00分) で約1分報道。

『年明けから2度目 中国船 尖閣周辺領海に侵入』

「中国海警局の船3隻が、沖縄県の尖閣諸島周辺の日本の領海に一時侵入しました。同様の中国船は年明けから尖閣周辺で活動し、2度目の領海侵入となります。」

第11管区海上保安本部によりますと、今日午前9時40分過ぎから、中国皆生局の船3隻が、沖縄県尖閣諸島の魚釣島周辺の日本の領海に相次いで侵入しました。このうち1隻は機関砲のようなものを搭載していたということです。3隻はおよそ1時間半後には領海を出て、午後1時半までに接続水域からも離れました。外務省は日本の領海への侵入を受け、「主権侵害にあたる」と中国側に抗議しています。同様の中国船は今月1日から8日連続、尖閣周辺で確認され、4日にも4隻が領海に一時侵入しています。」

・テレビ東京 報道無し

・フジテレビ 報道無し

○まとめと所感

以上の通り、12月26日の領海侵入を伝えた在京キー局はありませんでした。

1月4日の「今年最初」の領海侵入については、NHKとフジテレビが伝えましたが、NHKは午後2時からの5分間のニュース中約1分伝えたのみで、同日夜7時の「ニュース7」(30分番組)、9時の「ニュースウォッチ9」(1時間番組)では放送しませんでした。

1月8日の事案は、TBSが午後9時前の短いニュース番組「JNNフラッシュニュース」(午後8時54分9時00分)で約1分報道、他は日本テレビが日付変わって午前1時5分ごろに約40秒(「Going! Sports&NEWS」内で)伝えたのみでした。

ちなみに、NHKは1月8日の領海侵入を当日中は報道しませんでした。翌9日の午前6時からのニュースで2分間「尖閣諸島国有化から5年」というニュースを約2分間伝えました。その中で、海上保安庁が大型巡視船を建造するなど警備を強化する一方で“中国当局との対話を進めたい”としているという事実とともに、「昨日も中国海警局の船3隻が相次いで日本領海に侵入した」件、中国当局の大型船が5年前の国有化当時の40隻から120隻に増加している件などをまとめて伝えました。ただ、このニュースを伝えたのはこの早朝の一回きりで、繰り返し伝えることはありませんでした。このように、一応伝えはするけれども、なるべく目立たないようにしているかのような報道の仕方には、何かに遠慮をしているかのような、釈然としないものを感じます。

結局、この年末年始に起きた3回の領海侵犯事案を全く報道しなかったのはテレビ朝日とテレビ東京ですが、全キー局を通じて報道があった時間は4回、約4分10秒にとどまるという結果となりました。これでは、「尖閣諸島の件はテレビではほとんど報道されていない」と言っても過言では無いでしょう。

ところで、12月26日の領海侵入が全く報道されなかった一方で、同日には中国関連の話題がいくつか報道されました。

たとえば前日の25日に中国海軍が初導入した空母「遼寧」が沖縄本島と宮古島の間を通過し、初めて太平洋に出た件を、NHKが約30秒、日本テレビが約3分、テレビ朝日が約4分伝えました。

確かにこのニュースは中国軍の新たな動きを伝えるもので重要性があるとは思われますが、この件では中国軍艦の領海侵入も、中国軍機による領空侵犯もありませんでした。それに比べて、中国公船が領海侵入を行った件が、一日中全く報道しなくて良いほど軽い事態とは思われないのですが・・・

もう一つの話は、上海で日本の「大江戸温泉物語」にそっくりな温泉施設が営業しているという問題でした。この件は日本テレビで約5分、テレビ朝日で約1分30秒、TBSでは約3分43秒、フジテレビで約7分取り上げています。このニュースは、熊本県の人気キャラクター「くまモン」の偽物が登場するなど、問題の当事者以外であればつい笑ってしまうような「面白さ」があることは確かで、ある程度クローズアップされるのは理解できますが、この件を大きく伝えるのであれば、尖閣諸島での動きも同時に取り上げて、日中関係について笑ってばかりもいられないことを思い起こさせる報道が、少しはあってもよかったですのではないのでしょうか。

また同日、尖閣諸島に関連性のある話題としては、石垣市の中山市長が陸上自衛隊の部隊配備の受け入れを表明した件がありました。受け入れの理由として中山市長は「尖閣諸島周辺の中国公船航行」「北朝鮮の事実上のミサイル発射」などをあげ、「南西諸島の安全保障環境は厳しさを増している」と述べています。この件をNHKが約1分30秒、TBSが約1分伝えました。この件を報道するなら、まさにこの中山市長の表明があった日に尖閣諸島の沖合に中国公船の領海侵入があったことを伝える報道があってもよかったですのではないのでしょうか。

日々発生する無数のニュースから、放送局が何を選択して報じるかは、放送局が自律的に判断すべきであることは放送法第3条に記された通りです。しかしその一方で、限られた放送電波を使用する免許を受けて報道を行っている放送局は、視聴者の「知る権利」に応えるために何を選択して伝えるかという判断において、高い信頼性が求められる存在でもあります。

今回取り上げた3件の事案は、どれも過去の事例に比べて「異例」なところはなく、その意味でのニュースバリューは低いものかもしれません。しかしこの件は、「また同じような領海侵入か。だったら別にいいや」といったように私たち国民が「慣れっこ」になってしまうことこそが中国側の狙いであると考えられます。その中国側の思惑に嵌ってはいけなのではないかと警鐘を鳴らすことが放送局には可能です。それは、日本の視聴者に向けて放送する、日本の報道機関の使命ではないのでしょうか。テレビ報道関係各位におかれては、このことをよくよく考えて報道姿勢を見直していただくことを、当会として切に期待しつつ、報道の動向を注視して参ります。